

風水害に備えよう

今年も集中豪雨や台風などによる風水害の多い季節が近づいてきました。

梅雨の時期では、梅雨前線による大雨や長雨などにより、河川の氾濫や土砂災害が発生しやすくなります。中でも短時間に狭い地域に集中して降る「集中豪雨」には特に注意が必要です。集中豪雨は突発的に降るので予測が困難であり、ときに大きな被害をもたらすことがあります。

そのような風水害に対して日頃から備えておくことや、被害を未然に防ぐ知識などを今回ご紹介します。

少しでも危険を感じたら自主的に避難するようにしましょう。

知る

地域の状況を知る
お住まいの地域で過去に起こった災害などを知っておく。

自主防災組織などで危険な場所、避難場所、避難経路などを確認・点検し、落ち合う場所を決めておく。気象情報など情報を入力

台風の接近時や雨が降り続いたときには、テレビやラジオで気象情報を収集し、十分注意する。
※雨量などに関しては左図を参照ください。

備える

非常持ち出し品の確認

- 飲料水や食料、避難のために必要なもの
- 懐中電灯ラジオ・衣類など
- 個人ごとの必需品
- 持病の薬・生理用品など

住まいの点検

- 瓦やアンテナは固定されているか。
- 雨どいが詰まってないか。
- 外壁に亀裂はないか。
- 窓ガラスにひび割れ、がたつきがないか。

行動する

風水害時の避難の注意点

- 動きやすく安全な服装で足元は運動靴にする。
- 道路などが浸水してしまつたら、側溝などが確認できないので、杖を持って足元を確認しながら歩く。

- 単独では行動せず、家族や近所の人と行動する。
- 避難勧告などが出されていなくても、危険を感じたらすぐ避難する。

また、気象情報の発表や非難の呼びかけを待つて行動するのはなく、危険を早めに察知する努力が必要です。正しい情報に基づき早めの対応を心がけましょう。家族や地域で協力し合い、対応することが災害の抑制につながります。

雨量と水害

1時間に20ミリ以上の雨がふると、地割れや地表が流されたり、ガケ崩れの危険が予想されます。



高知県総合防災訓練に黒潮町消防団が参加



去る6月1日(日)、宿毛市の宿毛湾港を会場に高知県総合防災訓練が行われました。この訓練は、大規模地震、豪雨などを想定し、県、市町村および各防災関係機関による実践的な応急対策と各機関の連携した訓練を実施することによる、防災体制の確立を目指すことを目的に、さまざまな内容の訓練が行われました。

その訓練の一つ、風水害を想定した訓練「水防工法訓練」に幡多地区の各消防団が参加し、黒潮町からは39名の消防団員が参加をして連携をしながら土のう積み工を行いました。

消防団員の皆さんは、このように訓練を重ね、火災はもとよりこれからシーズンとなる台風などの風水害にも備え、地域の防災リーダーとして益々頼れる存在となっています。



土のう積み工に励む消防団員。洪水により堤防などを水が越してきた場合、土のうを用いて浸水を防ぎます。

●このページの記事に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

【本庁】総務課消防防災係 ☎43-2112(直通) 【佐賀総合支所】総務課総務係 ☎55-3113(直通)